



▲棚田で稲刈りをする児童たち

9月27日(木)、ぎふの棚田21選に認定されている貝原棚田(春日美束)で、春日小学校の全校児童40人が稲刈り体験をしました。

児童たちは、5月に自分たちで田植えをした棚田で、地元農家の方々の指導を受けながら稲刈りに挑戦しました。

刈り取られた稲は、4束ずつまとめて縛り、稲を乾燥させる「はさ掛け」までを行いました。

児童は「全員が鎌でケガもなく稲刈りができて良かった。」「稲が大きくなって、みんなで稲刈りできたことが楽しかった。」などと話していました。

刈り取られた稲からとれたお米は、12月に保護者や祖父母を学校に招き、おにぎりにして食べる予定です。

貝原棚田で稲刈り

〈春日小学校〉

岐阜県重要無形民俗文化財 春日の太鼓踊り

10月7日(日)は春日下ヶ流地区、13日(土)には春日上ヶ流地区、10月27日(土)と28日(日)には春日種本中瀬地区で太鼓踊りが披露されました。

春日の太鼓踊りは、豊年祈願や感謝の踊りとして古くから人々に親しまれ、岐阜県重要無形民俗文化財に指定されています。

鮮やかな衣装を身にまとった踊り手が太鼓を付け鉦や笛の音色に合わせ踊る姿はとても華麗です。

春日の太鼓踊りは鎌倉踊りとも呼ばれており、唄には、鎌倉殿やお姫様などのことも唄われ、鎌倉時代から始まったと伝えられています。

上ヶ流、下ヶ流地区の踊りは、踊りの輪の中心に「ザイ」と呼ばれる先端にきれいな布がついた棒状の物を持った踊り手があります。周りを囲む10人あまりの踊り手は、お囃子に合せ、胸に抱えた太鼓を打ち鳴らしながら、時にはゆっくりと時には激しく踊ります。それぞれ各地域の神社など、数か所でお昼から夜までかけて踊りが披露されました。



▲上ヶ流太鼓踊り



▲下ヶ流太鼓踊り



▲種本中瀬太鼓踊り

種本中瀬地区の太鼓踊りは、中心の踊り手が色鮮やかな「バンバラ」と呼ばれる背負いものを身につけ、周りを囲む10人あまりの踊り手とともに、種本六社神社や中郷熊野神社に踊りが奉納されました。

種本中瀬太鼓踊りは、他の地区に比べ、太鼓を打つ姿勢が腰を引いた低い構えであることが特徴です。

春日の太鼓踊りは、地域ごとに特色があり、地域の皆さんが、心を合わせて伝統芸能を受け継ぐことで、地域のつながりがより強いものになっていくことでしょう。

特産品で地域を活性化

〈無農薬栽培の上ヶ流茶〉

標高300メートルの高地である春日上ヶ流地区で栽培される「上ヶ流茶」は、無農薬にこだわり、化学肥料を使わず、ススキやヨシなどのわらを敷いて腐葉土として使用。標高が高いために害虫がつきにくく良質であり、昔ながらの手作業で選別し、渋みが少ないすっきりした味が特徴です。

近年は、高齢化が進み、お茶農家は10軒程度となっていますが、上ヶ流地区の特産品の魅力を発信して、新たな担い手の獲得につなげたいと、伊吹山麓にある天空の里（上ヶ流地区）での茶畑の見学や茶摘みツアーで地域の活性化を図りたいと様々な企画やPRに取り組んでいます。



▲地域の活性化をめざして特産品をPR

貝原棚田の新米を伊勢神宮へ奉納

〈貝原棚田保存会〉

10月15日(月)〜17日(水)にかけて伊勢神宮(三重県伊勢市)で執り行われた「神嘗祭」に貝原棚田(春日美束)の新米が奉納されました。

神嘗祭は、その年に収穫された新穀を大神様に捧げる儀式で、収穫と翌年の豊作を祈る神宮にとって1年で1番大きなお祭りで「神嘗正月」ともいわれます。

今回は、貝原棚田保存会(代表 新川勝重)のメンバー18人が「ひとめぼれ」の新米30キログラムを奉納されました。新川さんは「地域の方々の協力と、豊かな稔りに感謝するとともに貝原棚田の知名度アップにつなげていきたいです。」と話されました。



▲貝原棚田保存会の皆さん(伊勢神宮にて)

走れエコパッカー車事業

〈新デザインパッカー車完成〉

町内の子どもたちが、環境保全を願って描いた絵画「走れエコパッカー車事業」(NPO法人いびがわみずみずエコステーション主催)の入選作品12点を縦1メートル、横1.2メートルに拡大したステッカーにして、パッカー車(ごみ収集車)に張り付ける作業が10月中旬〜11月上旬に行われ、新デザインの6台のパッカー車が完成しました。

パッカー車は、町内でごみ収集を行う(有)揖斐川清掃のパッカー車で、今後、約2年間新デザインのパッカー車が活躍します。



▲ポスター張り付け作業の様子

養老鉄道揖斐駅で自転車安全点検

〈全国地域安全運動〉

10月17日(水)、養老鉄道揖斐駅の駐輪場で自転車安全点検が行われました。この取り組みは、10月11日〜20日にかけて展開された「全国地域安全運動」の一環で、揖斐警察署と揖斐川町自転車組合(代表 野田亨)が主体となって実施されました。

およそ130台の自転車を点検し、その内容は、「鍵がかかっているか」「防犯登録がされているか」の確認で、不備があれば、自転車のハンドルに安全啓発の札を付けました。町内の自転車盗難の90パーセント以上が揖斐駅で発生しているそうです。盗難防止に皆さんのご協力をお願いします。



▲自転車安全点検の様子(養老鉄道揖斐駅駐輪場)



▲贈呈式を行った関係者（谷汲山華厳寺仁王門前）

10月19日(金)、昨秋の台風で被害を受けた和歌山県那智勝浦町の熊野古道の復旧に役立ててほしいと、谷汲観光協会（会長 梅田正文）が友好提携を結んでいる那智勝浦観光協会にモミジの苗木2本、揖斐川町からは、那智勝浦町にハナモモの苗木1本が贈られました。

谷汲山華厳寺の仁王門前で行われた贈呈式で梅田会長は「1日も早い復興を願っています。」とあいさつされ、那智勝浦町観光協会の花井副会長は「復興こそが恩返しであると考え、苗木を立派に育てたいと思います。」と話されました。

那智勝浦町にモミジを贈呈

（谷汲観光協会）



▲お茶漬け選手権は大盛況でした

10月21日(日)、ラーニングアーバー横蔵（谷汲木曾屋）で、イベントを通じてエコライフのあり方を提唱する「第3回アースデイ・いびがわ」が開催されました。

このイベントは、西濃地域の環境NPOなどで組織する実行委員会が主催。エコバッグやマイ箸など、環境にやさしい行動を広める「ぎふ・エコライフ推進プロジェクト」をPRすることを目的として毎年開催されています。

ハツシモと美濃いび茶を使用したお茶漬け選手権では、10種類のお茶漬けが並び、人気投票で上南方の喫茶ヤマトが出品した「鹿茶漬け」が2年連続で1位に輝きました。

アースデイ・いびがわ開催

（お茶漬け選手権で地産地消）



▲中学生による発表「ふるさと」を来場者と一緒に合唱しました

10月21日(日)、春日モリモリ村で、こいやーかすがまつりが開かれ、地域の皆さんなど、約1200人が来場しました。

このイベントは、文化交流や地域の活性化を目的に行われています。

会場では、特設ステージで地元の園児・児童・生徒・サークルなどによる発表が行われ、テントブースでは、地域の新鮮な野菜などの販売やバザーも人気で、商品を買いたい求めるお客で賑わっていました。

その他、大道芸人ショーや歌謡ショー、春日の太鼓踊りなど、盛りだくさんの内容で、来場者は楽しい1日を過ごしました。

こいやーかすがまつり開催



▲完成を祝ってテープカットをする関係者

10月23日(火)、脛永駅前町営住宅の完成を祝して関係者約100人が参加して竣工式が行われました。

町営住宅は、鉄筋コンクリート5階建て。間取りは3DK（約67平方メートル）で30戸が入居できます。場所は、町の南の玄関口である養老鉄道揖斐駅に隣接して建設されました。

竣工式で宗宮町長は「省エネ対策やバリアフリーを実現しました。元気な町づくりを進め、定住促進や住民福祉のさらなる向上に努めていきたいと思えます。」とあいさつしました。

町営住宅の入居者抽選は11月上旬に行われました。12月1日(土)から入居予定です。

脛永駅前町営住宅竣工式

（養老鉄道揖斐駅に隣接）

新嘗祭へ揖斐川町の米を献上

11月23日(金・祝)に行われる五穀豊穰に感謝する宮中祭祀「新嘗祭」で使われる穀物の献納式が10月29日(月)に皇居で行われ、窪田光吉さん(小島)が、揖斐川町産「ハツシモ」の精米1升を献上されました。

窪田さんは、いび川農業協同組合理事として、米改革、地域農業の振興に取り組み、農業の発展に寄与されました。現在は、小島地内で水稲とイチゴを栽培しています。町に精米献上の報告に訪れた窪田さんは「今回のような依頼があつて驚きました。心を込めてお米を育てました。」と話されました。



▲献穀者の窪田さん(右)

無事故7000日に感謝をする会

〜春日小学校〜

10月24日(水)に無事故7000日を迎えた春日小学校(春日川合)で「無事故7000日に感謝をする会」が行われ、全校児童40人が地域の関係者を招きました。

春日小学校は、平成5年から無事故記録を続け、交通安全に対する様々な取り組みを行っています。

この日は、登下校を見守ってくださっている学校安全サポーターの所敏明さん(春日六合)や内藤敬司さん(春日六合)らに感謝の手紙や手作りのプレゼントを手渡し、全員で「交通安全に気を付けて、毎日生活することを誓います。」と宣言しました。



▲交通安全を宣言する児童

叙勲(瑞宝双光章)受章

10月26日(金)、瑞宝双光章を受章された横山周導さん(東横山)に、宗宮町長より伝達が行われました。

横山さんは、昭和23年に助教諭として採用され、昭和57年に退職するまでの30年以上の長きにわたり教員として奉職されました。また、昭和57年からは、保護司の委嘱を受け、更生保護活動を通して広く社会に貢献されました。保護司として活動する中、昭和58年4月には、藤橋村議会議員に初当選し、以降14年余にわたり在職され、うち4年間は議長として議会の円滑な運営に尽力されました。これらの功績が認められ、今回の叙勲の受章となりました。今回の受章おめでとうございます。



▲叙勲の伝達が行われました(横山さん中央)

川と海のクリーン大作戦

〜美しい水辺環境を保つ〜

10月27日(土)、揖斐川河川敷を中心に、町内全域で川と海のクリーン大作戦が行われ、揖斐建設業協会、町内小中学校、各種団体、地域住民を合わせ800人の皆さんが参加されました。

この取り組みは、ごみを捨てない心を育んでもらおうと、国土交通省の提唱で行われており、各自治体や賛同する企業・団体などがゴミ拾いを行なう事業です。

この日集まったのは、ペットボトル、空き缶、粗大ごみなど、およそ2トンでした。今後も皆さんで美しい水辺環境を守っていきましょう。



▲ゴミの分別作業をする参加者



▲みんなで豊かな森林を育てます

10月29日(月)、坂内広瀬地区の県有林で、実のなる木の植樹活動が行われました。この活動は、野生動物に餌を提供し、鳥獣被害を少しでも軽減するとともに、揖斐川水源地域の自然環境保全活動を通じて、生物多様性にあふれた豊かな森林を育てることを目的に実施されました。

この日は、約60人が植樹に参加して山グリ、オニグルミ、ミズナラ、コナラ、トチノキなど約100本を植樹しました。坂内小学校の児童8人も参加しており、児童らは「動物にとっても、人間にとっても良いことができてうれしいです。」と話していました。

実のなる木の植樹活動

野生動物との共生



▲表敬訪問に訪れた金指さん(右)

10月30日(火)、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊の保健師として、活躍されてきた金指愛子さん(三輪)が活動報告のため、揖斐川町役場を訪れました。金指さんは、平成22年9月～平成24年9月までの2年間、ガーナ南部のダングベイースト郡プテ小学校に派遣され、ガーナ初の養護教諭として保健教育を担当、地域診療所も兼ねた、ガーナのモデル保健室設置に尽力されました。

中学時代にボランティアでバングラデシュを訪れ「発展途上国の支援をしたい」と夢を実現し、「ガーナでの経験を活かして、日本でも保健師として活動していきたいです。」と話されました。

青年海外協力隊帰国者表敬訪問

ガーナ初の養護教諭

10月3日(水)～10月10日(水)の間、セントジョージマラソン派遣団として、セントジョージマラソンに参加されたランナーの皆さんから、報告書が届きましたので紹介します。

◆市街地に入るといびがわマラソンとも変わらない応援が続きました。セントジョージマラソンで一番嬉しかったのは日本語で「頑張れ」と応援してくれたことです。平成21年にセントジョージから1人の中学生をホストファミリーとして受け入れました。今年、揖斐川町代表に選ばれ、セントジョージに送るプロフィールに我が家にホームステイした娘さんと再会したい、と書いたところ、なんとホームステイ先は彼女の家が引き受けてくれました。再会が叶い感無量でした。(高橋豊和さん)

◆暗闇の中を走り出すという、日本のマラソンとは異なった時間帯で始まったため、わくわくしました。コースは永遠に一本道で、周りは大自然に囲まれており眺めもよく、気候もじめじめしていないので、とても走っていて気持ちよかったです。結果は自己ベストを出すことができ、安心感と達成感に満ちあふれました。この大会で、ホームステイ先のアンバーが優勝したと聞いてとても驚きました。11月に行われるい

セントジョージマラソン派遣団
体験報告が届きました。



▲完走できた喜びをホストファミリーと共に

びがわマラソンに彼女は招待され、私の家にホームステイすることになり、とてもわくわくしています。(野原麻衣さん)

◆マラソンコースの下見に行くと、素晴らしい広大な大地「絶景」が広がっていました。このような素晴らしい景色の中を走ることができるとかワクワクしている自分がいました。沿道には、車のトラックのリアゲートに座り応援している人がたくさんいてアメリカならではの感じでした。走っていてとても楽しく感じました。マラソンを走っていると、あの何千人という中、ホームステイ先のカリと出会う数百メートルでしたが一緒に走ることができ、とても嬉しく思いました。沿道で応援してくださる大勢の人の気持ち、大会を運営していただけた人たちの気持ちがあつて走れるのだと感じました。(栗田芳郎さん)